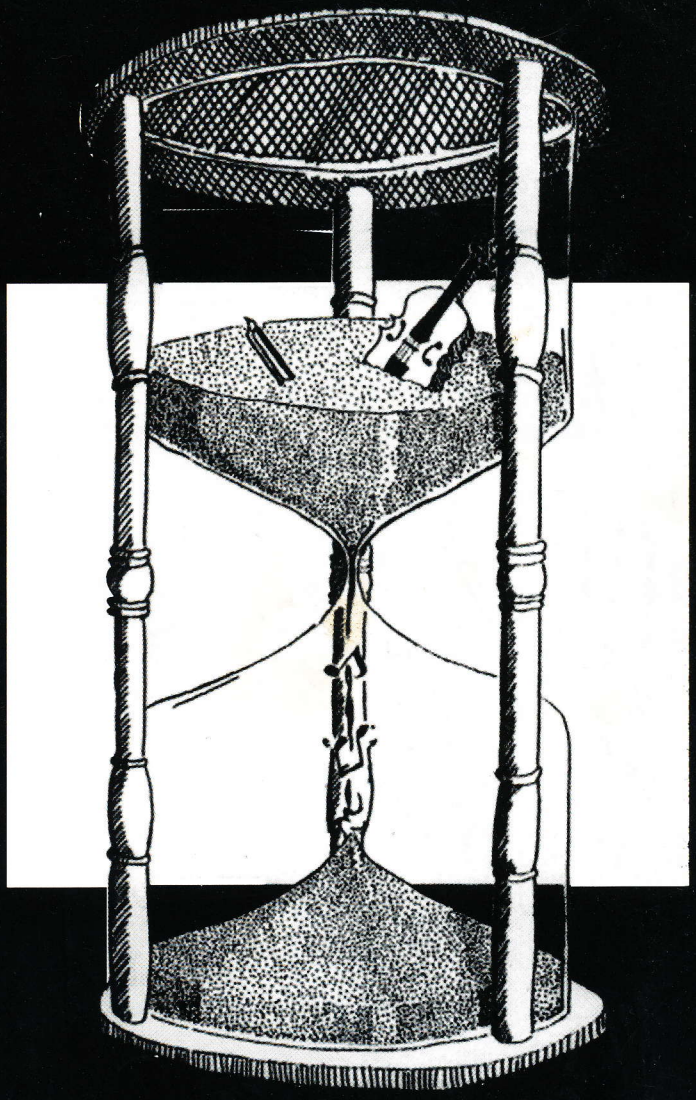
神戸大学交響楽団
第47回定期演奏会



神戸大学交響楽団　第47回定期演奏会

PROGRAM

悲劇的序曲 作品81　ブラームス
Tragische Ouvertüre Op.81 Johannes Brahms

指揮　松　井　真之介
コンサートマスター　林　　康一郎

—休憩—

交響曲第５番 嬰ハ短調　マーラー
Symphonie Nr.5 cis-moll Gustav Mahler

＜第I部＞

第1楽章　葬送行進曲　精確な歩みで、厳格に、葬列のように
1. Satz: Trauermarsch. In gemessenem Schritt.Streng. Wie ein Kondukt

第2楽章　嵐のように激しく
2. Satz: Stürmisch bewegt, mit größter Vehemenz

＜第II部＞

第3楽章　スケルツォ　力強く、速すぎないように
3. Satz: Scherzo Kräftig, nicht zu schnell

＜第III部＞

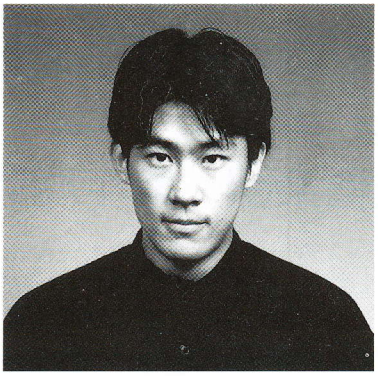
第4楽章　アダジエット　ひじょうにゆっくりと
4. Satz: Adagietto Sehr langsam

第5楽章　ロンド・フィナーレ　アレグロ
5. Satz: Rondo-Finale Allegro

指揮　金　　聖　響
コンサートマスター　清　水　宏　樹

日　時：1997年12月27日（土）　19：00開演
場　所：尼崎市総合文化センター・アルカイックホール
後援 兵庫県・神戸市民文化振興財団・兵庫県オーケストラ協議会・神戸新聞社

プロフィール



客演指揮　金　聖　響

1970年、大阪生まれ。ヴァイオリンを６歳の時から、故辻吉之助氏に師事。
1984年、渡米。　1993年、ボストン大学哲学科卒業。
1995年、同市、ニューイングランド音楽院指揮科修士課程卒業。同年、タングルウッド音楽祭指揮科のフェローシップに選ばれ、小澤征爾氏に師事。
1996年7月、ポルトガル・リスボン市で行われた、第二回若手指揮者の為の国際コンクールにて、最高位を受賞。
1997年5月、リスボン・メトロポリタン・オーケストラの定期演奏会に招かれ、成功を収める。同月、大阪シンフォニカー特別演奏会にて、日本デビュー。
来年は、広島交響楽団と日本フィルハーモニーとの演奏会を予定している。
小澤征爾、ロバート・スパーノ、グスタフ・マイヤー、レオポルト・ハーガー、湯浅勇二各師に師事。現在、ウィーン在住。

＜メッセージ＞

この度は、神戸大学交響楽団定期演奏会を振らせて頂くことになりまして、とても嬉しく思っております。このお話を頂いたいきさつを、この場をお借りしまして、お話しさせていただきます。

私の兄のような存在である、藤野助教授からご連絡頂いたことから、この冒険が始まりました。私はとりあえずオーケーをだしましたが、今回の演奏会のコンサートマスターの清水君から電話があり、「先生、マーラーの５番をやりたいです。」とのこと…。（おいおい、ちょっと待てや。マラ５やで。そんな難しい曲やるんかい！）と思わず本音が出ました。５月に大阪へ帰ったとき、オケの「幹部」たちとの話し合いで、この曲の難しさ、深さを強調して脅しに脅しましたが、結局彼らは諦めませんでした。６月に清水君からファックスが届き、そこには「マーラーの５番でお願いします。僕たちにはこの曲をやれる技術も感性もあると信じています。よろしくお願いします。」と言い捨て御免のメッセージ…。

実は、初めからマラ５をやるつもりでしたが、神大のみんながどこまでの気持ちでこの曲に挑戦してみようと思ったかが知りたかっただけなのです。少々いじわるですが、中途半端にマーラーを扱ってはいけないと信じる音楽家としての使命感というのでしょうか…。

このようないきさつがあって、今日という本番を迎えるわけですが、今宵、彼らのひたむきな努力と情熱を、マーラーという偉大な音楽家の芸術を通して感じて頂ければ、光栄です。

トレーナーの先生方

後藤良平（京都市交響楽団・ヴァイオリン奏者）
西口　勝（京都市交響楽団・コントラバス奏者）
宇治原　明（大阪フィルハーモニー・首席ファゴット奏者）
宮村　聡（京都市交響楽団・首席トランペット奏者）
宅間　斉（京都市交響楽団・パーカッション奏者）

以上の先生方にご指導頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。